

令和 4 年 1 月 1 8 日

新中学校の学校像（修正案）

1 新中学校が目指す教育

(1) はじめに

勝山市では、小中の教職員が連携して授業改善に取り組み、確かな学力の育成・深化を進めています。英語教育では、全国に先駆けて取り組んできた小学校英語を基礎として、小中高が連携した授業に取り組んでいるほか、タブレット端末を積極的に活用し「楽しく分かる授業」を実践しています。また、全小中学校がユネスコスクールに加盟し、「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」に認定されたふるさと勝山の豊かな自然・文化・歴史などを題材に、「環境教育」や「ふるさと学習」にも積極的に取り組んでいます。

令和の時代は、情報技術などの先端技術が急速に発展し、生活様式や社会が大きく変化していく予測困難な時代と言われています。この令和の時代において、学校教育には、一人一人の子どもが自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と尊重し合い、協働しながら社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となる資質能力を育むことが求められています。

このような資質能力を育てていくためには、知識や技能を身に付けるだけでは十分でなく、それらを活用して地域や社会の課題に取り組む探究的な学習や、同学年や異学年をはじめ他校種のより多くの児童生徒や、企業・地域の方々など幅広い年齢層の人々と積極的に交流したり活動したりする学習を進めることが必要です。

一方で、今後も少子化が見込まれる勝山市においては、生徒数の減少に伴い学校規模が小さくなってくると、きめの細かい丁寧な教育を進めることができる反面、生徒の人間関係の固定化や、集団活動・協働的な学習の制約、部活動の選択肢の減少などの課題が生じるほか、教職員の減少に伴ってバランスのよい教員配置が難しくなったり教職員の校務負担が増加したりするなどの課題も生じ、学校全体の活力の低下が懸念されます。

(2) 新中学校を勝山の教育の中核として

今後、子どもたちに身に付けさせたい資質能力や少子化の進行を見据え、勝山市の子どもを持続可能な社会の担い手として育てていくため、誕生から 18 歳成人に至るまで市民総がかりで切れ目なく支援し、最大限の教育効果を上げる新しい教育システムを構築していくことが必要です。

このため、県内有数の規模を誇るジオアリーナや、長山公園グラウンドを教育施設としても活用することとし、新中学校の新校舎を勝山高校の敷地内に建設し、中高生がこのエリアで共に学び交流する新たな文教ゾーンを整備します。

そして、今後の学校教育においては、多様な人々との交流・協働による学習が重要であることから、新たな教育環境の中で、新中学校と勝山高校に連携型中高一貫教育を導入し、高校生をはじめ地域の多くの人々と関わる教育を通して、中学生に確かな学力を育成するとともに、ふるさと勝山に愛着をもち、将来の夢や目標に向かって生き生きと成長することを支援する学校づくりを推進します。

さらに、中高の連携を各小学校や隣接する特別支援学校にも広げ、新中学校が今後の勝山市の教育の中核となって学校間の連携をより強化し、これまで勝山市が進めてきた教育をさらに高みへと充実・発展させて、勝山の子どもが勝山で学ぶ優位性をより一層高めていきます。

連携型中高一貫教育のねらい

- 中学生が地域と連携した探究学習をより充実させ、課題解決能力や論理的思考力、情報発信力などの能力を育むため、勝山高校が推進する探究学習に触れ学ぶ。また、勝山市にキャンパスを設置する予定の福井県立大学恐竜学部(仮称)と連携した学習を行い、中高生の探究学習の充実・深化を図る。
- 中学校段階の学習の理解をより深化させ、学力の向上を図るため、高校の教員が中学校の授業にチームティーチングで参加し、高校の学習に接続する指導を実施するとともに、大学進学など高い目標を持つ生徒には、発展的な学習も実施する。
- 中学生が生徒会活動や学校行事、部活動などを通して高校生の自主的・主体的な活動に触れ、主体性やコミュニケーション能力などの向上を図るとともに、高校での学習や生活、高校卒業後の進路選択に向けて視野を広げ、学習意欲や進路意識の向上を図る。
- 生徒が自分らしい生き方や将来の目標を考えるキャリア教育を充実し、地域の方々や企業、大学等の様々な外部人材による授業を中高が連携して実施する。
- 中学校の1学級の人数は、本県独自の規準(32人)によって国の基準(40人)よりも少数で編成し、きめの細かい教育を進めるとともに、学校全体としては適正規模の学級数とし、多様な生徒集団の中で互いに切磋琢磨し、様々な集団活動を通して豊かな情操や自己肯定感、他者への思いやり、社会性や人間関係を構築する力などを育む。
- 様々な交流・活動や授業などを通して、中学生と高校生および教職員同士の繋がりや信頼関係が深まり、勝山高校への進学者増や勝山高校の学力向上に結び付ける。

2 目指す学校像

・「新しい時代に生きる力を育む学校」

自ら考え、他者と協働しながら課題を解決していく主体的な学びを支援する学校

・「夢や希望の実現を支援する学校」

個性や能力を伸ばし、目標に向かって自ら粘り強く挑戦することを支援する学校

・「ふるさと勝山への誇りと愛着を育む学校」

地域とつながり、豊富な体験活動を通したふるさと勝山の学びを支援する学校

・「安全・安心で保護者や地域から信頼される学校」

互いに認め合い尊重し合って、生き生きと学校生活を送ることを支援する学校

3 目指す生徒像 4つのC

- | | |
|------------------------------|---------------|
| (1) 何事にも自信を持って粘り強く挑戦し学び続ける生徒 | Challenge |
| (2) 多様な他者と協働し主体的に考え行動する生徒 | Collaboration |
| (3) 自分と他者のよさを認め尊重し関わり合う生徒 | Communication |
| (4) 自分らしい生き方を考え将来をデザインする生徒 | Career |

4 新中学校における特色ある教育内容

(1) 探究的な学習

- ふるさと勝山の自然、文化、歴史、産業、食などをテーマに探究学習を実施
ジオパーク学習をベースに、SDGs^{*1}を踏まえたESD教育^{*2}を推進
- 勝山市や地域の活動等に参画(中高生合同での取り組みも実施)
学習成果は、発表会、市長への提言、HP等により積極的に情報発信

- 地域探究センター（仮称）を設置し、地域、大学、企業等との連携活動を推進
- 中学生の学習に高校生が助言したり、中高合同の発表会等を通じて学習内容を深化
- 高校の探究学習に触れることで、視野を拡げ、探究スキルを向上

（２）高校教員によるアシスト授業

- 中学３年次の数学と英語の授業に高校教員がティームティーチングで参加
 - ・３年生全クラスで実施
 - ・高校の学習に見通しが持てるよう興味関心を喚起する内容を中心に実施
 - ・中学校の学習内容の定着深化をサポートし、理解度に応じて発展的な内容を指導
- 中高の学習指導の相互理解により、中高教員の指導力をさらに向上

（３）ライフデザインタイムの設定（キャリア教育）

- 自分らしい生き方や、将来の目標を考える学習を自主的に進める時間を設定
- 様々な職業や、大学での学びを調べる学習のほか、地域の方々や企業、大学などの外部人材による授業も実施し、自分の可能性や進路選択に向けた視野を拡大

（４）学校行事・特別活動・部活動

- 中高生が語る会などを開催し、高校での学習や将来の夢や希望の実現に向けて意欲を向上
- 生徒会活動や学校行事などで高校生の自主的な活動に触れたり、合同で実施することを通して、中学生の主体性や社会性を向上
- 合同練習が可能な部活動では、高校レベルに触れてスキルを向上

（５）ICT環境の充実と効果的活用

- プロジェクターを多数設置するなど校内のICT環境を整備し、プレゼンテーションなどの機会を充実して、表現力や情報発信力を向上
- 様々な活動や学習でタブレット端末を文具として積極的に活用
- オンラインで国内外の学校・機関や多様な人材と交流し、英語の学びや探究学習、キャリア教育等を充実
- 学習効果の高いデジタル教材を導入し、分かる授業を進め主体的な学びを支援

※１ SDG s (Sustainable Development Goals)

持続可能な開目標。「誰一人取り残さない」という理念のもと世界の様々な課題を解決していく国際社会共通の目標のこと

※２ E S D教育 (Education for Sustainable Development)

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育